

LaVita
ラ・ヴィータ2013.7.31
vol.
83“あの日の教訓”を活かせ!
～地域防災のこれから～

特集1 緊急時には、普段のつながりが大事になる!

特集2 お互いに思いやりの気持ちで

輝き☆高校通信
秋田県立角館南高等学校(仙北市)

いきいきクローズUP「あきたトポスの会」

La Vitaな人々シリーズ～育休を取った男たち～

市町村からこんにちは。(小坂町)

男女イキイキ職場訪問 社会福祉法人大空大仙(大仙市)

知ってるつもり!? イマドキの男女共同参画

秋田県の男女共同参画

いんふおめ～しょん

平成25年度「男女共同参画社会づくり表彰」受賞者が決定しました。

「ハーモニーフェスタ2013」を開催しました。

連載♪

まいちゃんの素朴な疑問



緊急時には、助け合いが肝心。それそれが自分にできることで、みんなの力になれたらいいですね。

編 集 後 記

時間が経つにつれて、忘れることが多くなってしまう、3月11日の“あの日”的こと。今回の編集に携わることで、緊急時の対応について考え直すいい機会になりました。いつでも「困った時は、お互いさま」の気持ちを大切にしていきたいです。

(伊藤 美生)

特集で取材したお二人の、普段の活動で得たネットワークがあったから緊急時にも対応できた、というお話を印象的でした。いつ起こるか分からぬ「いざ」という時、普段からの人とのつながりがポイントになりそうです。

(笹村 昌子)

いんふおめ～しょん

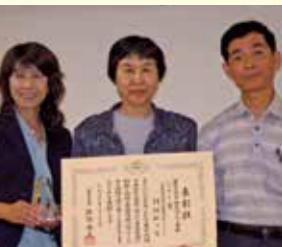
INFORMATION

平成25年度「男女共同参画社会づくり表彰」受賞者が決定しました。

【ハーモニー賞】

本荘由利男女共同参画推進市民ネットワーク11ばれっと

男女共同参画社会の実現に向け、市民の視点と語り口に立った啓発活動を続けていたこと、また行政との協働事業の実施や関係機関との連携等、団体を起点としたネットワークが形成され、地域全体の推進体制の強化が図られたことが高く評価されました。



【チャレンジ賞】

藤井けい子さん(仙北市)

女性名義による農家民宿の開業が、農山漁村における女性の経済的な自立の道を示すとともに、地域の女性の挑戦意欲を引き出す原動力となったこと、また女性の頑張りを地域全体で後押しする流れを生み出し、それが男性の頑張りにも繋がる好循環となって、地域の連帯感及び農山漁村の活力を高めたことが高く評価されました。



「ハーモニーフェスタ2013」を開催しました。

6月29日(土)、フォンテAKITAの国民文化祭サテライトセンターを会場に「ハーモニーフェスタ2013」を開催しました。フェスタでは、トークイベントや記念講演、男女共同参画クイズなどが行われました。記念講演には、講師としてベレフェクト代表取締役の太田彩子さんをお迎えし、「これからも働き続けるあなたへ」と題してお話ししていただきました。過去の自分のキャリアを振り返り、未来の自分のキャリアを描いた上で、多様な生き方の中から自分なりの幸せのかたちを考えるという内容に、会場の皆さんは熱心に聞き入っていました。



「La Vita」を読んでのご意見・ご感想をお寄せください。
お待ちしています。



秋田県生活環境部男女共同参画課

〒010-8570 秋田市山王四丁目1番1号

●TEL.018-860-1556 ●FAX.018-860-3895

●E-mail:persons@pref.akita.lg.jp

2

年前、3月11日の東日本大震災で、とりわけ女性たち

が困難に直面。地域の女性リーダーがないことや、「男はこうあるべき、女はこうあるべき」といった意識などが、困難を長引かせた

ことが浮き彫りになりました。

どうすれば、災害対策に多様な視点が活かされるのか。被災者支援にあたった県内2つの団体を通じて、そのヒントを探ります。



震災時の被災者支援を振り返る小玉さん。



秋田県への避難者が孤立しないよう、避難者交流会を開催し、悩みや情報共有してもらった。



避難者を対象とした『親子ようちえん』の様子。子どもたちの気持ちもほぐれたという。

「離れて暮らす夫と、価値観が合わなくなつて離婚した」「福島の祖父母は帰つてきてと言つていて」「避難せず、福島に残つたママ友との間に亀裂が生じた」など、問題は深刻です。ママたちは子どもを守らなくてはいけない

母子避難がほとんどだったので、「離れて暮らす夫と、価値観が合わなくなつて離婚した」「福島の祖父母は帰つてきてと言つていて」「避難せず、福島に残つたママ友との間に亀裂が生じた」など、問題は深刻です。ママたちは子どもを守らなくてはいけない

子どもの気持ちは、いつものお友達と一緒に活動する「学びの森」で、地域防災について学んでいます。避難当時の様子を話しあったり、牛乳パックで防災キットを作つたり。JA新秋田女性部でも防災講座の準備がすすめられていくので、町内にも広がっていくことを期待しています。

振り返つて思うのは、いざというとき助け合える信頼関係を、普段からつくりておくことが大事だということ。そのためには女性たちも発言し、行動し、男性と一緒に協力して、地域や家族を守つていくことが必要だと思っています。

すぐに浜田地区のママたちのネットワークで、依頼を受けた2時間後には物資を届けることができました。それがきっかけで会員たちや子育て支援団体などに、ブログやメールで物資とりまとめのお願いをし、4日目には常設会場に搬入・仕分け完了。この会場もママ友つながりで、秋田駅前の空き店舗を貸してもらつたものです。防寒着や下着、シューズ、電化製品など、親子で使える物資が続々集まりました。ブログで常設会場稼働の呼びかけを被災者に伝え、同時に支

援者も募集。3カ月間、開放しました。喜んでもらいました。週3回、一緒に活動している仲間だからこそ、普段のつながりや信頼関係で支援でき、日頃のママたちのつながりはすごいと思いました。

6月には県内被災者家族交流会を開催。岩手・宮城・福島の各県ごとに再会の場、情報交換の場になりました。開催にはママたちだけでなく、行政やファンダ助成、秋田市社会福祉協議会、JA新秋田女性部、市民活動応援団体、避難者支援ボランティア団体などとの連携がありました。

“あの日の教訓”を活かせ! ～地域防災のこれから～

緊急時には、 普段のつながりが 大事になる!

震災が起きた“あのとき”、15組の親子がりんご畑での活動を終え、解散しました。私は2組の親子を家に送りました。会員は転勤族が多く、パパが出張中だったり、震災の影響による仕事の処理で自宅に戻れない人、高齢マンションに住んでいて小さな子どもを抱え、非常階段の上り下りができる層マンションに住んでいる不安な人など、不安に思つた会員が一軒家に集まり2日間、一緒に過ごしました。

震災後すぐに設置され、避難者へさまざまな物を提供した。子どもたちは、いつものお友達と一緒に活動する「学びの森」で、地域防災について学んでいます。避難当時の様子を話しあったり、牛乳パックで防災キットを作つたり。JA新秋田女性部でも防災講座の準備がすすめられていくので、町内にも広がっていくことを期待しています。

子どもたちは、いつものお友達と一緒に活動する「学びの森」で、地域防災について学んでいます。避難当時の様子を話しあったり、牛乳パックで防災キットを作つたり。JA新秋田女性部でも防災講座の準備がすすめられていくので、町内にも広がっていくことを期待しています。

自然あそび親子サークル「Akitaコドモの森」
代表 小玉 朋子さん

Akitaコドモの森

平成19年5月、自然の中で子どもたちが生きる力を育み、親はリフレッシュしながら子育て・仲間・食・伝統・自然・秋田を学ぶことを目的に設立。現在の会員は30組。秋田市だけでなく男鹿市や由利本荘市、仙北市など全県各地から秋田市下浜にある「佐藤清太郎さんの森」など、週3回の活動に通っている。

特集
1

“あの日の教訓”を活かせ!
～地域防災のこれから～



お互いに、 思いやりの気持ちで

大仙市中仙赤十字奉仕団委員長
高橋トモ子さん

平成19年から、大仙市中仙赤十字奉仕団委員長として活動しています。平成22年に開催された、赤十字奉仕団の全国リーダー研修会で知り合つた縁で、東日本大震災で被災した岩手県の大船渡市と山田町の避難所に炊き出しに行きました。秋田の白いご飯が食べたいとの要望を受け、さりげなく鍋を振る舞うと、皆さんとても嬉しいと喜んでくれました。大船渡市の公民館に行つた際には、中仙はドンパン節の発祥の地なので、披露できよう一応はんてんを持参しました。しかし、こんな時に踊りなんて不謹慎だらうかと思うと披露するのではなくばれました。すると、公民館長がぜひ一緒にやろうと言つてくれ、避難者の方も皆さん一緒に踊つてくれました。そして、お返しにと大船渡の椿音頭を踊つてくれたのです。被災者の皆さんと信頼関係が結ばれましたと感じる、印象的な出来事でした。

避難所では女性ならではの苦労の声も聞かれました。リーダーは男性であることが多くたようで、被災者の方から生理用品が欲しいことがあります。また、しきりをめられました。すると、公民館長が今日活動したから明日結果が出るというものではありません。少しずつ成果が出て、仲間が増えればいいと思っています。



普段は高齢者支援や救急救命講習、防災訓練など様々な活動を行っています。防災訓練などで男女と一緒に作業すると、お互いに気遣いあってとても和やかだと感じます。相手のことを一番に考え、お互いに助け合えればいいですね。赤十字奉仕団は、今日活動したから明日結果が出るというものではありません。少しずつ成果が出て、仲間が増えればいいとおもいます。

みんなで考える 心づかいのかたち 「避難所HUG」

「避難所HUG」とは、静岡県が開発した、避難所の運営を体験できるゲームのことです。避難者の年齢や性別、国籍やそれぞれが抱える事情が書かれたカードを、避難所の体育館や教室などに見立てた平面図にどれだけ適切に配置できるか、また避難所で起くる様々な出来事にどう対応していくかを模擬体験することができます。

平成24年7月と11月に、潟上市の出戸小学校で、この「避難所HUG」を使い、職員やPTAの皆さんが避難所運営に挑戦しました。



それぞれの避難者の立場や事情に配慮しながら配置・対応することが必要になります。

「卓上、★・ヨ・ト・メ・通・」

秋田県立角館南高等学校(仙北市)



生徒会会长でインター・アクト部員の手代木ゆきなさん(3年生)と、生徒会副会長の竹内瑞季さん(3年生)に活動についてお話ししてもらいました。

昭和46年に春高バレーの決勝で対戦したのが交流のきっかけで、角館南高校は、東日本大震災で被災した岩手県立高田高校を支援してきました。震災2カ月後にはバレー部の生徒を一周間招待し、練習や食事、勉強などを一緒にいました。その後も生徒会を中心となって、物資の支援や募金活動、交流活動などを実行してきました。

30年以上の歴史を持つ社会奉仕クラブであるインター・アクト部も、この活動に参加していました。

普段は、老人施設を訪問し伝統芸能を披露する、一人暮らしの高齢者に手紙を書く、清掃活動

などを行つきました。

普段は、老人施設を訪問し伝統芸能を

子どもとお出かけ
さあ、困ったぞ!?



西馬音内保育園(羽後町)
たつひこ
保育士 藤原 達彦さん(31歳)
平成24年5月から
132日間の育児休業を取得

ラヴィータな人々 シリーズ 第22回 育休を取った男たち

育休を取る前は、育児書で学んだ知識をもとに保護者の相談に応じてきましたが、今では親の気持ちがよく理解できます。小さな悩みでも、共感しながら彼らの心に寄り添えるようになれた気がします。

男性の育休は、思っているほど敷居が高いものではありません。「育児を頑張るぞ！」と意気込んで挑戦するよりも、もっと気軽に休んでみることをおすすめします。時には大変なこともありますが、それなりに解決策は見つかるし、楽しいことや嬉しいことの方が多いですよ！

市町村から「こんにちは」

今回は、小坂町の「働く女性教室」について紹介します。

職場訪問

職場

「社会福祉法人 大空大仙」
[おじやまします。] 大仙市にある

市内で18カ所の保育園・幼稚園を運営しています。職員数約350名のうち、9割以上は女性という、女性が主力の職場です。「現場の職員に上から指示を出すのではなく、支援するのが仕事」と話す法人事務局の方から、女性が活躍する職場ならではの取り組みについて、お話を伺いました。

るように対応しています。体調不良の際には年次有給休暇でなく特別休暇扱いにし、有給休暇はリフレッシュに使えるようにしているほか、臨時職員やパートも含めて、全員が有給休暇や夏期休暇を取得することができま
す。有給休暇は時間単位、夏期休暇は連続した日につでなくとも取得でき

制度は健在なのに何に意障がない
当法人では、女性職員が産前・産後
休暇や育児休業を取得することはも
ちろん、男性職員が配偶者出産休暇
や子の看護休暇を取得するなど、男
女ともに必要な時に休みを取れるこ
とが自然なことになっています。周囲

育児休業や病気休暇等で長期休業中の職員のフォローのため、本人の体調を見ながら行事や研修に参加してもらい、子どもや園の状況、同僚の様子などを把握できるようにしています。また、育児休業や介護休業は、そ



認定こども園なかせんワイワイらんどの保育の様子

事務局の方は絶好の一当然のことをしているだけ」とお話をされていましたが、現場職員のことを大切に思っていることが伝わってきました。お互いへの思いやりのあるすてきな職場だと感じました。

していることは、女性が活躍する職場としては当然のことだと受け止めています」とのこと。

職員ひとりひとりに寄り添う

職員を大切に育成しているので、辞めてしまったのはもったいないと思っています。どんな事情があつても、なるべく勤め続けられるよう、職員と一緒に考え、事務局として現場の職員にできることは何でもやっていきたいです。これまで男性の育児休業の取得実績はありませんが、休業制度の周知に努め、希望があれば応えたいと考えています。以上のような当法人が行っています。

男性の育休取得には違和感がある：

「職場の男性または女性が育児休業を取得するとしたらどう思うか」との問い合わせに対しては、「男女ともに取得してほしい」と考える人が過半数。一方で、「女性は取得した方がよいが、男性の取得には違和感がある」と考える人が全体で2割程度となっています。

「男性が家事・子育て・介護等に積極的に参加する必要がある」という考え方に対しても、全体で9割近くが賛成意見。男性も8割以上が賛成意見と、家事等に参加することへの抵抗感は薄いようです。

「秋田県の男女共同参画」
秋田県では今年3月、「秋田県男女の意識と生活実態調査」の平成24年度調査結果を公表しました。さて、その結果から見えてくるものは…

「男は仕事、女は家庭」には反対が過半数
「男は仕事、女は家庭」という考え方に対しても、全体で6割近くが反対意

男性の育休取得には違和感がある：

「職場の男性または女性が育児休業を取得するとしたらどう思うか」との問い合わせに対しては、「男女ともに取得してほしい」と考える人が過半数。一方で、「女性は取得した方がよいが、男性の取得には違和感がある」と考える人が全体で2割程度となっています。

「男性が家事・子育て・介護等に積極的に参加する必要がある」という考え方に対しても、全体で9割近くが賛成意見。男性も8割以上が賛成意見と、家事等に参加することへの抵抗感は薄いようです。

「秋田県の男女共同参画」
秋田県では今年3月、「秋田県男女の意識と生活実態調査」の平成24年度調査結果を公表しました。さて、その結果から見えてくるものは…

「男は仕事、女は家庭」には反対が過半数
「男は仕事、女は家庭」という考え方に対しても、全体で6割近くが反対意

市町村から「こんにちは。」

今回は、小坂町の「働く女性教室」について紹介します。

経験を重ねて共感へ

今回は、小坂町の「動く女性教室」